

授業科目	キャリアインターンシップ【実習】		開講時期	後期
担当教員	大橋 健治		単位	1
授業の目的と概要	本授業の目的は、インターンシップ支援講座の修了者（単位取得者）が自らの経験を振り返り、第三者に対して語るに足る価値を導き出す機会を与える場を提供することにある。そのために、同様の経験をした学生同士が、自らの経験を語り合い学びあって自らの経験を昇華させるような、いわゆる経験学習を実践できるような授業をめざす。具体的には、TBL（Team-Based Learning）とプレゼンテーションというアクティブ・ラーニングの手法を導入する。			
到達目標	1. 自らのインターンシップ経験を体系的にまとめることができる。 2. 自らのインターンシップ経験を第三者に語るすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 この科目は一般企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。 関連する科目：キャリアデザイン基礎、ライフマネジメントⅠ、ライフマネジメントⅡ、インターンシップ支援講座など			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	インターンシップの振り返りとインターンシップ体験報告書の作成	インターンシップ支援講座の内容とインターンシップ体験の振り返り		
第2回	インターンシップ体験の報告会（TBLに基づくアクティブ・ラーニング）	インターンシップ体験報告書の作成とTBLでの気づきのまとめ		
第3回	インターンシップ体験のプレゼンテーションⅠ（全受講者の内5～7名）	PPTによるスライドと口頭発表に準備&気づきのまとめ		
第4回	インターンシップ体験のプレゼンテーションⅡ（全受講者の内5～7名）	PPTによるスライドと口頭発表に準備&気づきのまとめ		
第5回	インターンシップ体験のプレゼンテーションⅢ（全受講者の内3～5名）&まとめ	PPTによるスライドと口頭発表に準備&気づきのまとめ		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 初回の授業（事後学修を含む）で作成したインターンシップ体験報告書の出来栄			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ インターンシップ体験のプレゼンテーションの出来栄			
受講態度他	50％ アクティブ・ラーニングへの貢献度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように本授業はTBL（Team-Based Learning）とプレゼンテーションで運営する。これらのアクティブ・ラーニングの前提は学生による事前学修への誠実な取り組みである。また、授業への無遅刻・無欠席での参加も重要な要素である。やむを得ない遅刻・欠席は可能な限り事前に連絡を入れること。			
教科書	プリントを配布する			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	ライフマネジメントⅠ【演習】	開講時期	後期
担当教員	大橋(健)・藤原(隆)・徳永(彩)	単位	2
授業の目的と概要	もっと人前で自由闊達に話せばいいのにと悩んでしまう。彼氏から求婚されたがまだ結婚するには早いかと悩んでしまう。あるいは、就職したが、仕事がうまく前に進まない、職場の人間関係がぎくしゃくしてしまう。このように、人生は問題の連続である。問題とは“あるべき状態と現状のギャップ”である。人生をより豊かなものにしていくためには、そのような問題から逃げず、真正面に向き合い解決していかねばならない。解決の方法は色々あるが、本授業ではより合理的な方法として、ロジックツリーを中心とした問題解決の手法を学んでいく。授業の目的を達成するためにTBL (Team-Based Learning) といわれるアクティブ・ラーニングの手法を導入する。そのことによって、「わかる」から「できる」を実現する授業をめざす。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題を他人任せにせず自律的にとらえることができる。 2. 問題を問題解決の手順にそって解決していこうとする姿勢が保てる。 3. チームとして協力し合いながら問題解決に臨める。 		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> (1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 <p><授業外学修>1回の授業につき180分必要です。詳しくは学生便覧参照。</p> <p>関連する科目：キャリアデザイン基礎、ライフマネジメントⅡ、インターンシップ支援講座、キャリアインターンシップなど</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定	
第2回	教科書1限目：問題解決能力を身につけよう（小テスト①）	受講ノートの指示に沿った教科書1限目の事前学修・事後学修	
第3回	教科書1限目に関するケーススタディ①	ケース①の実施と振り返り	
第4回	チームビルディング演習	履修する学生は全員参加のこと	
第5回	教科書2限目：問題の原因を極め、打ち手を考える（小テスト②）	受講ノートの指示に沿った教科書2限目の事前学修・事後学修	
第6回	教科書2限目に関するケーススタディ②	ケース②の実施と振り返り	
第7回	教科書3限目：問題の原因を極め、打ち手を考える（小テスト③）	受講ノートの指示に沿った教科書3限目の事前学修・事後学修	
第8回	教科書3限目に関するケーススタディ③	ケース③の実施と振り返り	
第9回	インタラクティブ・レクチャー（教科書とケーススタディのまとめ）	小テスト①②③の振り返り	
第10回	問題の発見と解決演習（チーム討議→チーム代表選出）	与えられたケースから問題を発見し解決策を探る	
第11回	問題の発見と解決演習（チーム代表によるクラス発表）	チーム代表の問題解決案のブラッシュアップ（力を結集）	
第12回	問題の発見と解決演習（チーム代表によるクラス発表）	授業内の全体学修：チーム代表の発表内容の評価	
第13回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）	成果発表の準備と振り返り	
第14回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション） 受講ノートの提出	成果発表の準備と振り返り	
第15回	授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却	過去14回の授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	20% 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返りを必ず記述のこと） ※受講ノートは最終回に返却（フィードバック）します		
小テスト等	15% 教科書1限目（5%）、2限目（5%）、3限目（5%）		
成果発表	20% オーラル・プレゼンテーション		
受講態度他	45% TBLへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように本授業はTBLで運営する。TBLの前提は学生による事前学習への誠実な取り組みである。また、授業への無遅刻・無欠席での参加も重要な要素である。やむを得ない遅刻・欠席は可能な限り事前に連絡を入れること。私語や居眠りは当然のこと、主体的・能動的に学習しようとする学生は授業の場にといても出席として認めない。なお、初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し受講に関するルールについて説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加すること。		
教科書	『世界一やさしい問題解決の授業』（渡辺健介、2007、ダイヤモンド社、1,200円＋税）		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	